

## 心拍数

二年 石原羽琉

「生き物の生涯で鼓動する心拍数の合計は決まっている。」この真実を、僕は我が家で初めて飼うことになったハムスターの「モカ」と触れる中で深く感じるようになった。

小学校六年生の誕生日、ハムスターを飼いたいとねだった。僕は、小さくてモフモフしたかわい生き物に心を奪われ、ずっと見ていたいと思ったのである。ハムスターは安価な価格で販売されているが、迎えるにはゲージ代、餌代、床材など、様々な費用がかかってしまう。親からは、「命を迎えることに最期まで責任を持つこと」を強く言い聞かされ飼育の責任の重大さを理解するようになった。

モカを家に迎えると、彼は触れられることを好まない様子だった。触ろうとすると噛みついてくることもしばしば、慣れれば噛まなくなるかと期待したが、いつまで経っても懐くことはなかった。動物にはそれぞれの個性があり、彼のペースを尊重することが大切だと感じた。モカへの関わりは、部屋の掃除や餌やり、そしてゲージの外から彼を眺めることに限られることとなった。

モカは夜行性のため、僕が起きている時間の多くは寝て過ごす。寝ているモカを見ると、彼の鼓動がとても速いことがわかる。一説によれば、人間の六倍ほどの速さだという。僕が一分間に七〇回鼓動するとすれば、モカの一時間の鼓動は四二〇回となるのだ。小さな体と心臓で、彼は生きることと全力を注いでいる。そのため、ハムスターは寿命が短いのだろうと思った。

モカとの日々を通じて、生き物たちの持つ命の尊さと脆さを実感するようになった。彼の一定の鼓動数が、彼の生涯で変わることのない限られた時間を象徴しているように思えた。その一瞬一瞬が、彼の生きる意義を形成しているのだ。

モカとの出会いは、動物たちとのコミュニケーションに対する理解を深める機会ともなった。彼が噛みつくことで彼自身の表現方法があることを受け入れ、彼のペースに合わせて接することが大切だと学んだ。愛情と忍耐をもって彼と向き合い、信頼関係を築くことが飼育において重要であることを実感した。

モカとの時間は限られているが、その間にできる限りの思い出を作りたいと強く願っている。彼の存在が僕に与えてくれる癒しや成長は、これからの人生でも忘れることのない宝物となるだろう。

モカとの出会いは、僕にとって一生忘れられない経験となった。彼の小さな存在から学んだことは大きく、動物たちへの愛情と感謝を胸に、これからも生き物との共存を大切にしていきたいと思っている。ハムスターの心拍数が決まっているように、僕たちも与えられた限りある時間を大切に、生きる意義を見つけていきたいと思う。